

### [解答にあたって]

課題文は企業調査レポートの一部です。課題文1行目から2つの企業名が登場し、4行目までに合計3つの企業が登場しますが、まず、これらが実在するのか架空のものか調べる必要があります。この3社はすべて架空の企業ですが、「ABC 債権回収株式会社」は名称から債権回収会社と判別できるので業種が分かるといえます。また、3社の関係（今回は課題文中で親会社と子会社の関係にあることが明記されています）も把握しましょう。

課題文では特に難解な専門用語は登場しませんが、日ごろからよく使われている表現などを自分のデータベースに蓄積しておけば、時間が限られた試験においてもリサーチ時間の短縮に一役買ってくれることでしょう。日本語で同じ表記を使っている、英訳では業種ごとに異なる用語を使う場合もあるので注意が必要です。

最後に、英語と日本語の構造の違いを念頭に置きながら、読みやすさと簡潔さに配慮して訳出しましょう。

### [訳出のポイント]

- 1) 和文8行目の「2005年3月期」については、何種類か表記方法があります。翻訳例の他にも「FYE Mar2005」、「FY Mar. '05」としてもよいでしょう。
- 2) 同じく、和文8行目の「自己資本比率」は、「capital ratio」や「equity ratio」としてもよいでしょう。
- 3) 和文9行目からの一文は、「財務上の懸念がない」理由は「ABCには潤沢な手元流動性があり」、「親会社からの支援が期待できる」と2つあることを英文でも表現しましょう。
- 4) 和文10行目の「～懸念はない」は株式レポートや企業レポートでよく出てくる表現です。翻訳例の「we have no concerns～」の他に「there is no concerns～」とすることもできます。
- 5) 和文11行目からの1文は長いので、英訳する際にはこの内容を自分で整理してみる必要があります。一番いいことは「2006年度は黒字化する見通し」だということですので、最初に訳出しました。あとはそれぞれの内容がどのように関係するのかが明確になるように訳出すればよいのです。課題文では「手数料収入が減少」するから「欠損計上が見込まれる」けれども「親会社から支援を受けられる」と説明しています。
- 6) 翻訳例では、和文12行目のカッコ書きの中身をこの文章の英訳の最後で訳出しました。和文も英訳文も1文が長いので、読みやすさに配慮しています。「債権回収会社」を表わす「servicer」を主語にしています。
- 7) 和文11行目の「受託手数料収入」は「servicing fee income」と訳しました。

### 翻訳例

In fiscal year 2005, ended March 31, 2005, the financials were extremely sound, as cash ratio amounted to 86% of total assets and the equity/asset ratio was 81%.

Furthermore, we have no concerns regarding its financials for the moment as ABC has ample liquidity and can expect sufficient support from the parent company, if necessary.

Meanwhile, on the earnings front, ABC expects to turn into the black in FYE06 with the business support from its parent company, while it estimates to report losses in fiscal 2005, ending December 31, because of a decrease in servicing fee income together with transferring Uzushio Bank Group's loans to RCC. (The servicer has changed its book-closing period to December from March to adopt the parent's system.)